

図書館だより Vol.11

2014. 夏号

3人の先生に単独インタビュー

 梅田 睦美先生(全日制)

 晝田 忠弘先生(定時制)

 黒川 良顕先生(定時制)



☆特集☆

図書委員会推薦

生浜校生に薦める一冊

☆図書館でチャレンジ・勝手にランキング☆



Q どのような高校生活を過ごしていましたか？

A 高校時代は、音大に行こうかロシア語をやろうか迷っていたので、一年生の時はピアノをその気で練習していました。ロシア語に決めたあとは、ミュージカルの同好会の方を一生懸命やっていました。踊るのも好きだったので、ピアノの伴奏とダンスをやりました。その仲間とは最近また一年に一度会うようになりました。

Q 当時夢中になっていた物事ってなんでしたか？

A 同好会は楽しくやっていたので、ミュージカルの音楽を聞いたり、お金がかかるので数は行っていないんですけど、舞台を観に行ったりしました。あとはやはりロシア語もやりたかったので、テレビとかラジオで一生懸命ロシア語を勉強していました。いまは、会話するほどではないけれど、テレビでロシア語を聴くと、単語がわかるくらいです。

Q 当時読まれていた本は？聞いていた音楽はなんですか？

A 高校時代は教科書くらいしか読まなかったですが、『山月記』は、よく覚えています。あとは童話とかが好きでした。英語の宿題で、『ムーミン谷の彗星』を苦勞して読んだのも覚えてます。あとディズニーの英語の本が家にあったのでよく見てました。音楽は、ピアノをやっていたので、クラシックの音楽が多かったかな。ロシアに興味があったので、チャイコフスキーとか好きです。あと、映画音楽は結構聞きましたね。

Q 最近読まれた本は？

A 私の高校時代の友達が、本を書いてるんです。ここの二、三年はその人の本を主に読んでます。心温まるお話を書いています。一番最近では、『長屋の神さま』という本で結構シリーズになっていて面白いんです。名前は、鈴木晴世さんっていうんです。みなさんぜひ、機会があったら読んでください。すごく読みやすいと思います。あと英語の『アナと雪の女王』の絵本は読みました。教室においてあります。

Q 今、読書のペース・量はどれくらいですか？

A 読めるときは一か月に、一冊くらいなんですけど、英語の本もできるだけ読もうと思っているので、そういうのを入れると、なかなか進まなかったりします。夏休みとか、長期の時はまとめて二、三冊借りたりすることもあります。普段はなかなか読めませんね。新聞は毎日読ん

で切り取ったりしていますけどね。

Q 生徒に勧めたい一冊はありますか？

A これもロシア繋がりでなんですけど、『嘘つきアーニヤの真つ赤な真実』があります。ロシアがソ連だった頃の共産圏での普通の子供達の生活が描かれていて、今の日本では考えられないこともたくさん出てくるので、もし機会があったら読んでみて下さい。

Q 先生が好きな言葉を教えてください。

A 昔、先輩が「雲のように生きる」って言っていたことを思い出して。雲が流れていくように、何があっても、いろんな風に形を変えて、流れていけたらいいなと思います。

Q 先生は外国に行ったことがありますか？

A 旅行程度なら結構あります。一番長い滞在は、オーストラリアに一年近く行った時です。向こうの小学生に日本語や日本の文化を教えました。そして帰ってきて高校の先生になったんです。ロシアやベトナムにも行きました。

子どもの頃、家の関係でインドに半年程いました。小学二年生の頃でした。インドでは学校には行かず、ドリルを使つて家で勉強していました。お手伝いさんがいて毎日食事を作ってくれました。本場のインドカレーですね。そんなこともあったんだって思い出しました。

Q 今、生浜高校の生徒へ伝えたいことはありますか？

A 生浜高校には、素直で優しい子がいっ

ばいるんですが、何かをやろうと思つていても、諦めてしまう子が多い気がします。何でもいから、いろんなことにチャレンジしてほしいと思います。失敗してもいいから、まずやってみることが大切だと思うので。頑張つて色んなことにね。あと、外にもっと出て行つてほしいと思います。知らない土地や、できれば外国にもいつてみると、違った考え方ができるようならなうと思ひます。これは自分の経験からです。

みんなには可能性がまだまだあります。何かを始めることは大変だと思うけれど、人は皆迷いながら一歩一歩進んでいくものだと思います。



インタビューを終えて

先生の言葉の中で特に印象に残った言葉は、「何でもいから何かにチャレンジすること」。私の中で目標をつくり、失敗してもあきらめないでチャレンジしていきたいと思ひます。

晝田 忠弘先生 数学科



Q どのような高校生活を過ごしていましたか？

A 高校時代は、一、二年生の時は部活ばかりの高校生活でした。三年生の夏に部活を引退してから、ようやく勉強に取りかかったという感じで、部活はサッカー部でした。サッカーは今も続けてます。昨日もやってきました。今も小さな社会人リーグでやっています。

Q 本に関わるエピソードはありますか？

A 私は、小学校、中学校、高校と、本をあまり読まない生徒だったんです。大学生の時、何か読まないかとまずいなと思い、大学一年か二年の時に夏目漱石の本を全部読もうと決めて、大学の図書館に通い『夏目漱石全集』全巻を読みました。

Q その中で一番印象に残っている小説はなんですか？

A 夏目漱石が最後に書いた『明暗』という未完で終わった小説です。このあとどうなるのかなって考えたりしました。

Q 最近読んだ本何ですか？

A もっぱら数学の本。これは雑誌なんだけれど、『Newton』を、数学の特集がある時なんかは読みます。そして、授業にそのネタを使ったりしています。

Q 趣味は何ですか？

A 数学ですね。算数・数学はずっと得意でした。数学の教師になろうと思ったのはだいぶ後ですけど。

Q 生徒に薦めたい一冊は？

A 去年の「図書館だより」でも言ったんだけど、サッカー日本代表の長谷部誠が書いた、『心を整える』って本。スポーツをやるだけでなく、仕事とかにも、すごく参考になることが書かれていた本だったので、生徒にもぜひ読んでもらいたいです。

Q 音楽は聞きますか？

A 高校時代は、洋楽にはまってました。

Q どういったものを聞いていたのですか？

A 特に好きだったのは「Green Day」というロックバンドですね。CDを片っ端から買ったり、DVDも買いました。今も聞きます。

Q 好きな映画は何ですか？

A 『ロード・オブ・ザ・リング』と『スターウォーズ』、『ロード・オブ・ザ・リング』の原作の『指輪物語』は、高校生の時に読みました。本を読んでから映画を観ました。読み終えた3ヵ月後に映画

が上映されたんです。本は人物や背景を想像させます。映画はその想像した人物や背景が、実際の映像として目に入ってくるので、すごく綺麗で感動しました。物語と映像は自分のイメージしたものとは違ったところもあったけど、本は本の良さ、映画は映画の良さがそれぞれあると思いました。

Q 旅行が好きとのことですが、どこに行ったことがありますか？

A 海外旅行は、二回行ったことがあります。ニュージーランドと、カンボジアに行きました。日本とは違う空気があって、面白いんですよ。夜の街なんか歩くと、日本ではありえない雰囲気があったり。行かないと感じられないことがたくさんあるので、ぜひ行ってほしいです。

Q ハプニングがありましたか？

A 二回とも、現地の人に間違えられました。溶け込める自信あります。特に東南アジア地域はいけると思います。

Q これから行ってみたい場所はありますか？

A 日本の四十七都道府県を全て制覇してみたいですね。あと、大阪のUSJに行ってみたいです。大阪自体は何回行ったことがあるんですけど、行くと、流れてすぐに京都に行っちゃって。デイズニランドやデイズニシーはよく行くんですけどね。

Q 今、生浜高校の生徒に伝えたいことは？

A 食わず嫌いな人が多いなって思います。これは食べ物のことだけじゃなくて、例えば、数学なんか嫌いな人が多いじゃないですか。嫌いなのはどうでもいいんだけど、それを避ける人が多いなって思います。できれば、苦手だな、嫌だなんて思っていることにも根気強く取り組んでみると、実はこれ、うまい、ってことがあるのに気づけるんじゃないかな。数学じゃなくても、人間関係かもしれない、部活動の練習メニューかもしれない、何かはわからないんだけど、辛いからとか面白くないからとか思っているものが、実は面白いことがあるかもしれない。ぜひ食わず嫌いにはならないでほしいなって思います。



インタビューを終えて

今回のインタビューで、晝田先生の様々な話が聞けて良かったです。とくに「目標を決めて本を読む」というのは、数学の先生らしいと思いました。自分は何か目標を決めてもなかなかその通りにはいかない、晝田先生の実行力はすごいなあと思いました。



がありますね。

Q その中でとくに記憶に残っている本、曲などは何ですか？

A まず本からいうと、加藤周一の『羊の歌』っていうのが、思い出に残ってますね。『羊の歌』の淡々とした文章がとても粹に感じましたね。それから曲のタイトルは、ずいぶんコンクールでは失敗したんだけどね。「A列車で行こう」っていう曲はずいぶん練習したので記憶に残っています。

Q どのような高校生活を過ごしていましたか？

A ずいぶん部活動に力を入れた記憶があります。部活動はずっと吹奏楽をやっていました。コンクールとか大会とかがあったんで、ずいぶん力を入れましたねえ。毎日遅くまで練習したりしていました。私は、大会とか本番に弱くて、本番で自分が出した音に失敗したことを今も覚えてます。

Q 吹奏楽部のパートは？

A 僕はずっとチューバを吹いてました。あのかいやつです。あの頃は、楽譜が読めたけれど、今は読めませんね。すっかり忘れました。

Q 当時読まれた本、聞かれた音楽は何んですか？

A 高校時代、印象に残ってるのは、加藤周一の本です。文章や書き方が好きだったんで、よく読んだ記憶がありますね。音楽は、吹奏楽部の時にジャズの音楽をずいぶん演奏した記憶があるから、その当時からジャズをよく聞いていた記憶

して、君たちはあまり知らないかもしれないけど、冒険アクションから恋愛小説時代小説まで手がける志水辰夫です。彼らの本は好きだったな。それと、今もう一度作品を読み直したいと思っている作家は、石原慎太郎ですね。元東京都知事の。それから松本清張の本かな。

Q 好きな言葉は何ですか？

A よく使う言葉でもいいかな、私の頭に残ってる言葉って、「和光同塵」。昔からよく聞いた言葉で、好きだなって思います。意味は、光を和らげて塵と同じくするということで、教師としても皆、生徒の側に立つて、なるべく授業なんかも生徒の視点で見て、物事を優しく教えるっていうのかな、そういうのが人なのかなとも思うんだよね。

Q 生徒に薦めたい一冊は？

A 皆さんが興味関心を持っている、分野の本を読めばいいと思いますよ。皆さんが、PCや携帯のほうが本よりも沢山の情報を見ることができると思っているとしたら、本は、確かに情報量は少ないけど、頭のなかでイメージする力をつけられる。本の方が私はいいと思います。いい本だと、ずっと頭に残るんだよね。私も授業とかで調べる時には、ネットなんかで調べる事もあるけれど、どうしても頭にはいらないうね。やっぱり頭にいれるなら本の方がいいのかもしれない。

Q 今生浜高校の生徒に伝えたいことは？

A 今の私たちは、食うものには困らず、

幸せな生活をしているから他国の貧しさに気がつかない。例えていうなら家の中で皆楽しく遊んでいて、家の外で火事が起きているのに家の中で遊んでいるから外の様子に気付かない状況みたいな。そんな感じがしてならないんですよ。ですから、今の日本の現状、今の自分の状況に満足してないで、広い視野をもって、世の中のこと、自分以外の人のことも考えてくれればなって思います。

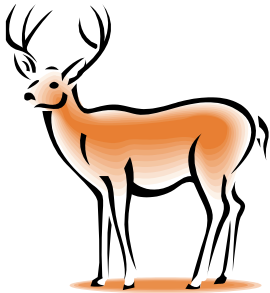


インタビューを終えて

先生は、お薦めの本をあえて言わずに皆さんの興味関心を持っている一冊を読んで欲しいと言っていました。僕は、自分が好きな一冊をぜひ探して読んでみようと思いました。

2年B組 鈴木 千遥 文学少女シリーズ 『“文学少女”と死にたがりの道化』 野村美月著 この本には実在の文学小説が出てきて、なぞられながらストーリーが展開されていくので名作にふれることが出来ます。なんといっても文学+ミステリーというこの二つが大好きな人にはたまらない作品です。もちろんこれだけではなく、主人公の少年や文学少女達の様々な恋愛なども描かれています。外伝もたくさん出ているので、あの時やその後を知ることが出来て楽しいので是非読んでみてください！	☆特集☆ 図書委員会推薦 生浜校生に薦める一冊
2年D組 坂下 愛梨 『いのちのヴァイオリン』 中澤宗幸著 この本のあらすじは2011年3月11日の東日本大震災で津波被害を受けた陸前高田の流木、瓦礫の山は見た目ゴミの山に見えますが、それは人が生きてきた歴史であり、思い出の宝物なのです。それらの大切な記憶をヴァイオリン弾きつづき、語り継がれていくストーリーです。	2年C組 伊藤 美奈 『ギネスブック』 クレイグ・グレンディ編 ギネスブックは37の言語に訳されていて、100か国で発売されています。色々な記録に色々な人がチャレンジをして新しく記録を作り、ギネスワールドレコード社に認められテレビなどにも取り上げられています。「凄い！！」と思ってこの本をオススメの本として選びました。
1年C組 高久 詢矢 『名のないシシャ』 山田悠介著 人間であって人間でない少年がある少女と出会って人生を変えていくストーリーです。とにかく泣けます！	1年C組 鎌滝 優太 『BORDER』 古川 春秋/金城 一紀著 捜査中に頭に銃弾を受けた石川安吾。彼は死者と会話ができる特殊能力を身につけた。死者の無念が石川を通じて解決していく様は快感だ。小栗旬が石川を演じドラマ化された。
2年G組 小柴 大樹 ゼロ年代SF傑作選 『おれはミサイル』 SFマガジン編集部 「貴様の誘導哲学を言ってみろ！」これは劇中のミサイルの言葉です。最初はミサイルのくせに意識が私より高いと感心したのですが、その哲学というものは自らの死が前提とされている尖った哲学だと後にわかりました。存在意義は違えど、人の精神を置換した者達の行動と考えはシニカルで通快で興味深いものでした。娯楽性も申し分ありません。お薦めです。	2年B組 羽生 渚砂 『少女パレアナ』 エレナ・ポーター著 アメリカでは知らない人はいないという小説です。小さい頃に両親を亡くしたパレアナには、亡き父と約束したゲームがありました。「何にでも喜びを見つける遊び」です。「心」ひとつで、どんなに自分をまた周囲をも変えていけるかを教えてくれる一冊です。みなさん、ぜひ読んでみてください。



1年H組 飯沼 あかり 『階段途中のビッグ・ノイズ』 越谷オサム著 絵などで表さなくても、しっかりそれぞれの人物像が見えてくるととてもわかりやすい文章なのに、内容が深く、読んでいて楽しい。読書が好きな人なら読んでみて損はないと思います。	3年A組 富田 奈々恵 『神様のカルテ』 夏川草介著 映画「神様のカルテ」でとても感動し思わず買った本です。主人公栗原一止が務める本庄病院は24時間365日の看板をたてているため、医師が不足状態。そんな中で働いている一止が何を思うのか。患者の思いや命の重さ、大切さを教えてくれる本です。
4年D組 時田 真帆 『はやぶさ、そうまでして君は』 川口淳一郎著 4年前に地球に帰還した小惑星探査機『はやぶさ』をご存知でしょうか？私がこの本を推薦する理由は、「いろんな人が感動できる宇宙の本」だからです。普通、宇宙の本というと専門誌がだらだらと書いてある難しい本、というイメージがあるのですがこの本は、難しい言葉をそのたびに解説してくれるので宇宙に詳しくない方でもさくさく読めると思います。宇宙の本で感動できるというのはかなり珍しいことだと思います。	3年B組 花田 遥奈 『8.1』 山田悠介著 ホラー小説で自分の思っていなかった展開でハラハラドキドキします！山田さんの作品はどれも面白いので読んでみてください。
2年C組 マリアカルレイン 『アレの名前大百科』 みうらじゅん著 普段使っているもの、身につけているものなどの名前を皆さん知っていますか？この本にはそんな身近にあるもののよくわからないような名前がたくさん載っています。知れば活用できるものもたくさんありますよ！	3年B組 能星 優香子 『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 東野 圭吾 東野さんの本は面白く、文章が読みやすいし軽く泣けるそんな本です。
4年E組 伊奈 光生 『夏と花火と私の死体』 乙一著 この作品は乙一さんのデビュー作です。話の特徴は私の死体が一人称で話が進むことです。僕は乙一の作品を読んでいるとき、まるでマジックをみているかのように感じます。そんな乙一の魅力にどっぷりハマってしまいました。 	1年F組 岩瀬 結 『カゲロウデイズ』 じん(自然の敵P)著 ボカロ曲が元になった今までにないようなすばらしい作品なのでぜひ読んでみてください。 3年B組 宗藤 薫 『鹿男あをによし』 万城目学著 ある男がしゃべる鹿に出会い試練に向かう話です。剣道の話や歴史の話などが出てきてとても面白いです。 

図書館でチャレンジ

百年文庫を読んでみよう！！

百年文庫を 100 冊読んでみませんか？



日本の文豪も、海外の翻訳文学も垣根をもうけず新鮮な目で読んでみると
思いがけない 新しい魅力が見えてきます。
読む喜び、出会う喜びがひろがる名短篇の森へ、ようこそ。(ポプラ社より)

このキャッチフレーズいかがですか？
すべて短編ですので、読みやすいです。

まずは10冊チャレンジ。それができたらさらに10冊と。
図書館としてチャレンジシートを用意します。景品も検討中です。

もしも百年文庫100冊達成者でたら・・・

勝手にランキング

図書館の本の貸し出し冊数ベスト5 (6/18㍻)

1位	2C	4位	2D
2位	1F	5位	2E
3位	3D		

ご利用ありがとうございました。

先生のご協力をお願い!!

「子供が好き！」
「本の楽しさを伝えたい！」
「ボランティアをしたい！」

図書委員会はそんな生徒を募集しています。

図書委員会では現在、近隣の保育園で絵本の「読み聞かせ」を企画しています。

興味のある生徒は、図書館の隣の司書室まで詳細を聞きに来てください。



インタビューからのお薦め本

梅田睦美先生より

『長屋の神さま』

鈴木晴代 (著)

『嘘つきアーニヤの真っ赤な真実』

米原万里 (著)

書田忠弘先生より

『夏目漱石全集』

『指輪物語』

J.R.R. トールキン (著)

黒川良顕先生より

『再生』

石田衣良 (著)

図書委員会推薦

生浜高生に薦める本

今年の夏号は、図書委員会から寄せられたお薦め本を紹介します！

冬号第2弾も考案中です。お楽しみに。

また、お薦めの本は、図書館に揃えますので、ぜひ実際に手にとって見て、読んでください。



～編集後記～

最初にお力添えを頂いた先生方と手探り状態の中で、頑張ってくれた一年生、急遽の依頼にしっかりと対応してくれた先輩にお礼を申し上げます。本誌は、複数の人達の力で成り立っています。我々制作陣一同が思うことは、生浜高生の本への関心を高めることであり、この図書館だより夏号がその一助となることです。是非紹介されている本に意識を傾けてみてください。図書委員各人が薦めているのですから当然厳選済みということになる濃い作品集です。夏休みに入って、有り余る時間を本にあずけてみる、そんな過ごし方もいいんじゃないでしょうか。

2G 小柴 大樹
(図書副委員長)

今年度から図書委員長になりました富田です。昨年も関わりましたが、今年は委員長という立場からこの図書館だよりの作成に参加しました。最初は新しく入ってきた図書委員と上手くやっていけるか、心配でしたがリードしてくれる二年生や三年生のおかげで成功させることが出来ました。インタビューでは、先生方のご協力本当にありがとうございました。今後とも頑張っていきたいと思います。よろしくお願いたします。

3A 富田 奈々恵
(図書委員長)

～編集係～

表紙担当		1 H		1 G	2 G	黒川良顕先生	1 E	1 C	2 C	4 E	4 D	書田忠弘先生	1 B	2 B	3 B	3 A	梅田睦美先生
2 A	富田 奈々恵	樋口 歩	深澤 朋矢	今浪 佑哉	小柴 大樹	担当	笠原 誠之助	高久 詢矢	伊藤 美奈	伊奈 光生	時田 真帆	担当	小山 葵	羽生 渚砂	宗藤 薫	花田 遥奈	富田 奈々恵
																	担当

Have a Nice Summer Vacation.